２月職員会　内部研修資料

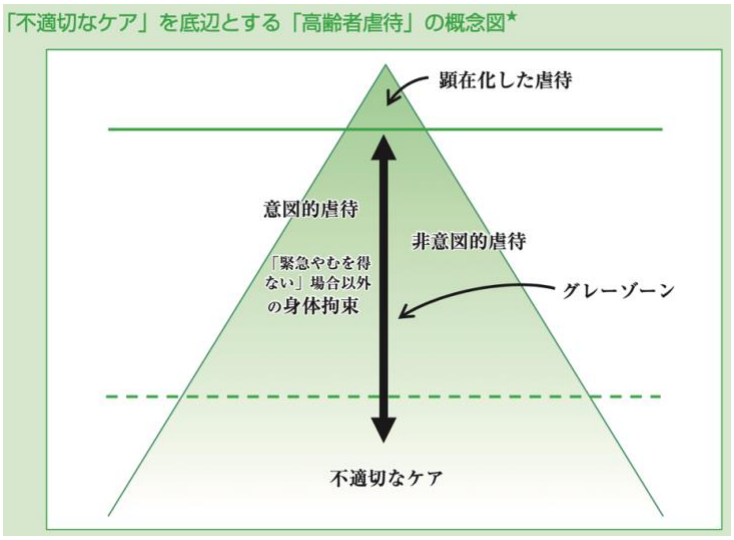
**介護の中のことば：用語、言葉遣い、記録**

0. 「介護は心と言葉と行いからなっている」（＊１ 末尾文献番号　以下同じ）
1. 介護の中の用語　－　記号として効率的な意味の伝達
    - 専門用語・略語　←　医療、リハビリテーション、ソーシャルワーク
    - 慣用語
        - 「ニンチ（認知)」 － 認知症のことを略してこう呼ぶ言い方が聞かれることがあるが（例：～が進んで)、当事者や家族の気持ちを軽んじるニュアンスがある（＊２ほか)。
            → 略さず「認知症」と言ってください
        - 世間一般的な言葉遣いからは違和感のある慣用語の例
            ・(便／尿）汚染、盗食、洗体、徘徊（＊２ “一般の人が初めて読むとギョッとします・・・侮蔑的な印象を与える表現も")
            ・食介、配茶、体交(体変）（＊３ "略語はわかりにくい・・・機械的で冷たい感じがする" ）
            ・連れ帰り(出し)、「指示が通らない」、排便(の有無)を出産の比喩で言う
            便利さから何気なく使っているが、利用者（家族）が自分についての言葉として聞いたらどう感じるか、と見直してみる。
    - 家族への報告や説明では、なるべく易しく一般的な言葉を用いる（＊２、３）
2. 利用者への言葉遣い
    - 「ことば」の意味だけでなく、口調（声の大きさ、高さ、速度、語気)、敬語、表情などが含まれる
    - 利用者への**優しさ、丁寧さ、敬意**の心遣いが自然に表れるような言葉遣いを心がけたい
      それが欠けた言葉遣いが繰り返されると「不適切なケア」に該当する可能性があり、やがて「心理的虐待」の芽となる（＊文献４の図と説明を参照)
        - 「高齢者虐待防止法」の虐待の類型：心理的虐待　身体的－　性的－　経済的－　ネグレクト
          心理的虐待 － "高齢者に対する著しい暴言または著しく拒絶的な対応その他の高齢者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。"
        - 虐待防止委員会　R3 報酬改定によりすべての介護事業所に設置が義務化
          年２回の委員会開催と研修の実施　　理事長も加わって今月発足させる
    - “（言葉遣いについて）利用者といくら親しくなっても人生の先輩だということを忘れないこと、専門職として真心を持ってケアをし、親しみやすい丁寧語で対応することが基本です。”（＊５）
    - “（認知症スケールの）長谷川和夫先生は今、認知症でデイサービスに通っています。そこでは介護職員が立て続けに大きな声で話しかけるのが気になるそうです。「低い声でゆっくりと話してほしい」そうです。自分の目の高さで正面からゆっくりと話してほしい。急がせる言葉は困るということです。”（＊６）
3. 記録
    - ケア記録には原則として敬語は用いない（＊２，３，７，８）
      例：眠っておられた → 眠っていた　　参加していただいた → 参加した
      召し上がられた → 食した　　と仰った（言われた）→ と言った、と言う
      ○○様の次女様が来所され → ○○さんの次女が来所し
      日常の話し言葉に自然で適切な敬語を
    - 利用者の言葉を様子・表情などとともに「 」で括って記録する　例：～の表情で「・・」と言った
      願い、訴え、心情、ポジティブな言葉も、ACP につながる言葉
      → 言葉からその人の思いを掬い取って支援につなげる
    - 「特変なし」「特に変わったことはなく過ごした」等は用いない（＊２，７，８）
      些細なことでもおやっと感じた行動や言葉を記録する

２月職員会　内部研修資料

＜文献＞


1. 道具七分に腕三分：介護は心と言葉と行い　高谷敦生　中西出版 2022
2. 介護のことばづかい：家族へのアンケートから　大修館　2019
3. やさしく言い換えよう介護の言葉　2013 三省堂
4. 「高齢者虐待を考える 養介護施設従事者等による高齢者虐待防止のための事例集」 認知症介護研究・研修仙台センター他 2008


"虐待の前段階またはその周辺には、虐待とまで言えなくとも、グレーゾーンに属する「不適切なケア」が存在する。(中略) 不適切なケアの段階で発見し、将来の虐待の芽をつむ取り組みが高齢者虐待の防止という法律の趣旨からは求められる"


5. 尊厳ある介護　里村佳子　岩波書店 2019
6. 介護と福祉のはざまを紡ぐ：「人」と向き合う細井恵美子の信念と実践　クリエイツかもがわ　2020
7. 介護記録の書き方　中央法規　2022
8. 介護記録の書き方ハンドブック　ナツメ社　2013


（担当　山﨑）